

信楽園病院だより

第73号 平成19年4月1日 発行

〒950-2087 新潟市西区新通2099番地 Tel 025-260-8200 FAX 025-260-8199

E-mail main@shinrakuen.com ホームページアドレス www.shinrakuen.com

— 循環器内科の紹介 —



循環器内科 内科部長 松原 琢

患者様が、ご自分で心臓の病気を心配し、循環器内科の外来を受診するのは、ほとんどが「胸が苦しくなる」「胸に圧迫感がある」「脈が乱れる」「ドキドキする」といった症状がある場合です。このような症状がある方が皆、心臓に病気があるわけではありませんが、中には狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患による症状であることもあります。

心臓は筋肉でできた袋のようなもので、1日に約10万回収縮し、全身に血液を送り出しています。心臓が拍動し続けるためには、心臓にも多くの酸素や栄養が必要となりますが、心臓自身は心臓の中を通過する血液からではなく、心臓の表面を取り巻く血管（冠動脈）から血液を受け取っています。この冠動脈が動脈硬化などで狭くなったり詰まったりすると、血流が不足し（虚血状態のため）心臓が酸素欠乏状態になり、狭心症や心筋梗塞になるわけです。そのため、これらの虚血性心疾患は冠動脈疾患とも言われています。



冠動脈疾患の多くの患者様は胸の痛みを訴えますが、冠動脈疾患は必ずしも胸が痛くなる病気というわけではありません。「いつも歩いている駅までの道を歩くと息が切れる」「階段の上り下りが急につらくなった」「家事をすると肩が重くなる」「飲酒後に胃のあたりが痛くなる」といった症状もしばしば狭心症の症状のことがあり、このような症状が1〜2ヶ月以内に起きてきた方や、1〜2週間前から「夜間や早朝になると苦しくなって目が覚める」といった患者様は、病状の不安定な冠動脈疾患の可能性ががあります。このような病状の不安定な方は、できるだけ早くに循環器内科の専門医に御相談いただくのがよいと思います。

